

私と富士山の関わり

<静岡県富士山世界遺産センター 副館長 滝 正晴>

静岡県富士山世界遺産センターに副館長として着任して1年余りが経過しました。静岡市生まれの静岡市育ちなので、若い頃は富士山は遠くから眺めるものであり、訪れる場所ではありませんでした。

それが大学に入りオリエンテーリングという北欧発祥の森の中を地図とコンパスを使って方向を定めて走る競技を始めたことにより、富士山の麓を訪れる機会も増え、今までより近い場所で富士山に接することになりました。

とはいっても走っている最中は森の中なので富士山はほとんど見えないのですが…。天気の良い日には競技の合間や終了後のほっと一息の時間に仲間と富士山を見上げて「今日の富士山大きくてきれいだね」と親しみ訪れる山になっていきました。

仕事としての富士山との関わりは、世界遺産登録よりはるか前に富士山を管内に含む土木事務所にいた時で一度だけ登山道の安全確認のために頂上まで登り、大きなゴミ袋いっぱいになるまでゴミを拾いながら下山しました。

その後は15年ぐらい富士山との仕事上の縁がありませんでしたが、世界遺産登録の推薦書の作成やイコモスの事前審査を担当していた当時の世界遺産推進室の所属する部の総務・人事担当という間接的なつながりができ、カンボジアで開催されている世界遺産委員会からの登録決定の吉報を待つ職員の姿をよく覚えています。世界遺産登録はゴールではなく新たなスタートであり、顕著な普遍的価値を未来永劫守り、後世へ継承していくことが大事であることを知ったのもこの頃です。はずかしながら、静岡県側だけでも3か所登山道があることもこの頃に初めて認識し、登録直後の五合目での現在の保全協力金の社会実験にも手伝いで参加し、昼間でも日が陰ったときの寒さというよりも冷たさにびっくりしました。

登録決定後は、他の部署へ異動し縁も切れていましたが、世界遺産課に異動することになり、改めて富士山と向き合うことになりました。それまでは構成資産のことはほとんど知らず、オリエンテーリングの際には村山浅間神社の近くを通りながらもああ神社があるなだけだったのが、これが構成資産の一つである村山神社か、そういえば山伏の格好をした人が行事をしているのを見たことがあるとか、この前オリエンテーリングで走ったこの辺りって昔の登山道周辺だなとか、今まで気にしていなかったいろいろなことが気になるようになりました。

特に世界遺産登録前と大きく変わったと感じるのは、それぞれの構成資産が訪れやすくなったということです。世界遺産登録前は構成資産を訪れるための駐車場等が十分整備されていませんでしたが、登録後は駐車場が整備され、案内所等も新たに整備されたところも多く、週末にはガイドさんも常駐する施設も増え多くの方を迎える準備も整いました。

今後とも世界遺産富士山を守り、次の世代へ継承していくために富士山を知ってもらうための情報発信をしていきたいと思っています。

